

項目	医療計画に記載された中間年までの取組 (計画より転記)	中間評価年までの取組内容と結果 (2018年度から2021年度までの取組)	中間評価年までの取組に対する評価	
			◎: 予定以上 ○: 概ね予定どおり △: 予定どおりでない －: 未実施	最終年までの取組の概要
地域医療構想	「大阪府豊能保健医療協議会」等において、「新公立病院改革プラン」、「公的医療機関等2025プラン」を策定する病院を中心に、各医療機関が地域で担う役割を確認し、地域に必要な医療機能、連携方策を検討します。	豊能医療・病床懇話会や豊能保健医療協議会を開催し、病院プランや病床機能報告等の最新の医療データ等をもとに、各病院が地域で担う役割を確認し、地域に必要な医療機能、連携方策を検討しました。(医療・病床懇話会年1～2回、保健医療協議会年1回開催)	○	病院連絡会(病床機能報告対象病院43か所)や医療・病床懇話会ならびに保健医療協議会等を開催し、地域に必要な医療機能、連携方策について検討します。
	保健所が、保健所管内の病院関係者に対して、医療提供体制の現状と病床機能報告の結果から特に不足する病床機能を情報提供し検討する場を持ち、医療連携機能を強化するとともに自主的な取組みを支援します。	平成30年度から病院連絡会を開催し、各病院の今後の方向性について関係者間での共有を図り、地域の将来のあるべき医療提供体制について、意見交換をしました。(病院連絡会年2回開催。コロナ禍の令和2年度未開催・令和3年度1回開催)	○	病院連絡会を開催し、医療提供体制の現状や課題の共有を図り、今後の医療提供体制について協議します。
在宅医療	圏域において安定した在宅医療を提供するため、病院を中心とした関係機関同士の連携会議等で、中核的な病院が在宅療養後方支援病院となるよう後方支援体制を整備する等の取組みを支援します。	・在宅医療懇話会において、在宅療養を支えるために医療機関が担う後方支援体制について情報共有をしました。 ・在宅医療に係る医療機関間の連携促進に向けて会議や研修会等を開催しました。 ・豊中市では、在宅療養中の急変時の入院受け入れについてICTを用いた空床情報の共有化システムを構築し、試行しています。	○	在宅医療懇話会、病院連絡会等を開催し、在宅医療の取組み事項の現状把握や対策を検討します。
	入退院時において関係機関とのスムーズな連携を図るため、情報共有の取組みを支援します(各種マニュアルの作成・見直しと周知、ICT導入等)。	入退院時の連携構築に向けて、入退院のガイドラインや支援ツールの普及や入退院時の情報連携シートの導入を図り連携促進に取り組んでいます。また効率的な情報共有に向けたICTの導入について、各市町、医療機関、介護等の多職種間でスムーズに活用できるように検討しています。	○	在宅医療懇話会において、各市町及び圏域内の取組み状況を確認します。引き続き関係機関間の情報共有に向けた取組みを支援します。
	関係機関の連携体制を構築するため、在宅医療に従事している関係者が市町の連携会議等に参画できるよう、保健所が橋渡し役になり進めていきます。	医療及び介護関係機関が参画する会議において、在宅医療・介護連携の現状把握や課題抽出を行い、在宅医療の連携体制について検討し取組みを進めています。	○	各市町において在宅医療関係者を含めた連携会議を開催し、連携体制の構築を進めていきます。
	24時間365日の在宅医療推進のための薬剤師会を中心とした薬局ネットワーク化の取組みを支援します。	各市町の薬剤師会において、勉強会等を通じてネットワークの構築に向けて検討しています。また、在宅医療懇話会や薬事懇話会で各市町の現状や課題を共有しました。	○	引き続き、在宅医療懇話会や薬事懇話会で検討し、ネットワーク化の取組みを支援します。
	住民の生活圏を考慮し、府外の医療機関との広域連携の構築に努めます。	地域医療に関する会議等での情報収集を通じて周辺市町を含めた広域連携の構築に努めました。	○	隣接する府外の医療機関との連携構築を図ります。
がん	豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会で、がんの専門医療提供体制の構築、地域医療連携、がん患者の就労支援等を行っています。	各部会(がん登録部会、緩和ケア部会、がん検診情報部会、がん地域連携部会、がん研究部会)において年間計画を策定し、がん医療体制、がん登録の精度管理、がん患者の心の支援等の課題に取り組んでいます。	○	豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会を通じて、進捗状況を確認し、取組みを推進します。
脳卒中等の脳血管疾患、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病	脳血管疾患については、国立循環器病研究センターが事務局となり開催されている地域連携パス会議で、地域連携診療計画の評価及び情報交換・共有を行っています。	豊能圏域脳卒中地域連携クリティカルパス会議を年3回開催し、FIMデータの集計及びバスデータ解析の報告、情報交換・共有を行っています。地域連携診療計画については、必要な情報を整理し様式を一部改訂しました。パス参加施設は34病院です。	○	引き続き、地域連携クリティカルパス会議を開催し、地域医療の連携体制について検討します。
	心血管疾患については、医療連携を検討する会議等で、慢性心不全を含めた急性期から維持期までの医療連携体制の課題を検討します。	豊能心血管疾患地域医療連携推進会議を年2回開催し、令和2、3年度は新型コロナの感染拡大状況に伴い、開催を見合わせました。専門医から非専門医への情報提供を想定した診療情報提供書のひな型を作成し、令和2年度より試行的に運用していますが、院内コンセンサスや電子システム導入の難しさ等の課題があります。	△	引き続き、委員からの聞き取り等で課題を整理し、医療連携の方法や体制について検討します。
	糖尿病については、医療連携を検討する会議等により、医科歯科連携、病診薬連携等、多職種連携による包括的なケア体制の構築を図ります。	二次医療圏での豊能糖尿病地域医療連携推進会議を年1回(コロナ禍では開催見合わせ)、池田市域・箕面市域・豊中市域・吹田市域の各調整会議を年1回開催(コロナ禍では一部開催)し、糖尿病重症化予防に向けて、合併症の早期発見や病診連携等について課題を共有し、取組みを推進しました。	○	引き続き、豊能糖尿病地域医療連携推進会議等を開催し、糖尿病重症化予防に向けた医療連携体制について検討します。

項目	医療計画に記載された中間年までの取組 (計画より転記)	中間評価年までの取組内容と結果 (2018年度から2021年度までの取組)	中間評価年までの取組に対する評価	
			◎: 予定以上 ○: 概ね予定どおり △: 予定どおりでない -: 未実施	最終年までの取組の概要
精神疾患	身体・精神合併症患者の受入れ体制について、2015年度より開始された大阪府夜間・休日精神科合併症支援システムの運用状況と、ORION分析システムからみるデータとともに経過を確認していき、課題整理します。	豊能地域救急メディカルコントロール協議会(旧救急懇話会)において、応需率をもとに精神科疾患合併患者の受け入れ体制について意見交換を行いました。また府夜間・休日精神科合併症支援システムの情報提供を行い利用状況を確認しました。また、ORION分析システムから精神疾患に関する課題を分析したところ、現在、精神疾患のあるケースについて受入れ困難な状況は確認されていません。	○	身体・精神合併症患者の受入れ体制について、大阪府夜間・休日精神科合併症支援システムの運用状況等を踏まえ、課題を整理するとともに、連携強化などの支援方策を検討します。
	統合失調症、認知症、依存症等、多様な精神疾患にかかる関係機関による協議の場を設け、医療の充実、医療連携推進のために検討します。	精神医療懇話会では、依存症や妊産婦のメンタルヘルスなど、身体科と精神科の医療機関間連携について課題を抽出し、医療の充実や医療連携の推進に関する検討を行いました。	○	引き続き、精神医療懇話会において、圏域での「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムへの構築」への動きも意識し、精神科医療の地域連携、精神疾患の医療の充実に向けて検討します。
救急医療、災害医療	救急搬送及び搬送後の医療機関データを分析し、適正な救急医療体制に向けた課題抽出と分析及び評価をしていきます。	救急懇話会は令和2年度からメディカルコントロール協議会と一体化し、豊能地域救急メディカルコントロール協議会として年2回開催しています。うち1回は、旧救急懇話会の内容でORIONを用いた救急搬送指標及び、医療機関別応需率等のデータをもとに救急医療体制について課題抽出や評価を行いました。令和2、3年度は、新型コロナの感染拡大に伴い陽性者の応需率を共有すると共に、療養解除後の後方医療機関との連携課題や救急医療体制の維持確保について意見交換を行いました。	○	豊能救急メディカルコントロール協議会を年2回開催し、救急医療体制の現状と課題について意見交換を行い、受入体制の充実を図ります。
	市民へ救急の適正利用に関する啓発を行い、救急医療の負担軽減に努めます。	各自自治体及び消防本部等ホームページ等で救急車の適正利用の啓発や救急医療相談窓口「救急安心センターおおさか」事業の周知を図りました。また、各自自治体では救急医療情報キットや救急タグの配布・登録を行い迅速かつ的確な搬送に向けて取組んでいます。	○	引き続き、市民への啓発を行い、救急医療の負担軽減を図ります。
	救急告示病院と救命救急センターを中心としたバックアップ体制のもと、精神科疾患合併患者の受入れ促進の対応を検討します。	救急懇話会(平成30年度、令和元年度開催)、豊能地域救急メディカルコントロール協議会(令和2、3年度開催)において、精神疾患のある事案の応需率等をもとに、精神科疾患合併患者の受け入れ体制について意見交換を行いました。また、府夜間・休日精神科合併症支援システムの周知を図りました。	○	精神医療懇話会での協議結果等も踏まえ、引き続き、安定的な精神科疾患合併患者の受入れ体制について検討します。
	BCP策定が未整備の病院に対し、立入検査等の機会策定の働きかけを行います。	圏域内医療機関のBCP策定状況の調査を行い、現状を把握するとともに、未策定の医療機関にはBCP策定について働きかけを行いました。BCP策定済病院 47病院のうち17病院(令和3年10月1日現在)	○	立ち入り検査などの機会を通じて、BCP策定について働きかけを行います。
災害時に医療機関と行政等を調整する災害医療コーディネーターと地域災害医療本部長である保健所長とが効率的に連携できるよう役割を明確化し、連携を進めていきます。	・豊能二次医療圏大規模災害時医療連携強化プロジェクト研修を毎年開催し、災害拠点病院等医療機関との連携を図っています。 ・平成30年度には、豊能圏域医療、行政関係者を対象とした大阪府北部地震対応の振り返り、研修を実施しました(27病院、地区3師会、3保健所、市危機管理室等参加)。 ・また、コロナ禍(令和2、3年度)においては、医療機関、消防本部等を対象に医療提供体制の確保や院内感染防止等をテーマに連絡会議を開催しました。	○	引き続き、研修や訓練を実施し、医療機関と行政の連携体制の構築を図り、地域の災害時医療体制の強化を推進します。	
周産期医療、小児医療	医療的ケアが必要な児の在宅支援体制(訪問診療・訪問看護・レスパイト体制・相談支援事業所等)の充実を図ります。	・慢性疾病児や障がい児の在宅療養を支える支援機関とともに、個別ケース会議や研修等を開催し、相互の役割理解や災害時の対応計画の共有等円滑な在宅療養が行えるよう連携の強化を図りました。 ・また、個別ケースを通じて医療的ケア児の新たな支援機関の拡充に努めています。	○	医療ネットワーク会議等を開催し関係機関の連携強化を図ります。
	関係機関、医療機関との会議を継続的に実施し、連携強化とネットワークの構築をめざすとともに、関係機関と協力し虐待の早期発見にも取り組んでいます。	・地域における小児在宅医療支援ネットワーク会議を開催しました。(平成30年度、令和元年度開催) ・市町開催の要保護児童対策協議会虐待部会や障がい児部会、産前産後ケアにおける産科医療機関等との連携会議などにおいて、虐待の早期発見、関係機関との情報共有、役割の確認、支援方針の共有を行い、ネットワーク強化に努めています。	○	医療ネットワーク会議等を開催し関係機関の連携強化を図ります。